

資料 5

報道発表資料
平成 30 年 2 月 14 日
地震火山部

第 140 回火山噴火予知連絡会
草津白根山の火山活動に関する検討結果

草津白根山の本白根山では、現時点ではマグマ噴火に移行する兆候は認められませんが、当面は 1 月 23 日と同様な噴火が発生する可能性は否定できません。

草津白根山の本白根山では、1 月 23 日 10 時 02 分頃に噴火が発生しました。噴火した場所は、鏡池北火口北側の火口列と西側の火口及び鏡池火口底の火口列と推定されます。

噴火に伴う噴出物量は、火山灰の堆積量の調査から 3 万～5 万トンと推定されます。その後は噴火はなく、火口からごく弱い噴気が時折確認されています。

この噴火の前後で、振幅の大きな火山性微動が 09 時 59 分から約 8 分間観測され、傾斜計では 10 時 00 分から約 2 分間で本白根山の北側付近が隆起し、その直後の数分間で沈降する変化が観測されました。また近傍の GNSS 観測点でも、噴火に伴い新たな火口から遠ざかる動きが観測されました。ただし、GNSS 観測では、噴火に伴う変化以外、マグマの動きを示す特段の変化は観測されていません。

火山性地震は噴火の後に多数発生し、翌日以降に減少しましたが、その後も少ないながら噴火前よりやや多い状態が続いており、火口近傍の観測点では微小な地震が観測されています。わずかな傾斜変動を伴う振幅の小さな火山性微動は、翌日以降 25 日までみられました。

草津白根山の本白根山では、現時点ではマグマ噴火に移行する兆候は認められませんが、当面は 1 月 23 日と同様な噴火が発生する可能性は否定できません。

噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

今後の本白根山の火山活動をより詳細に把握するための、更なる観測体制の強化について、検討する必要があります。